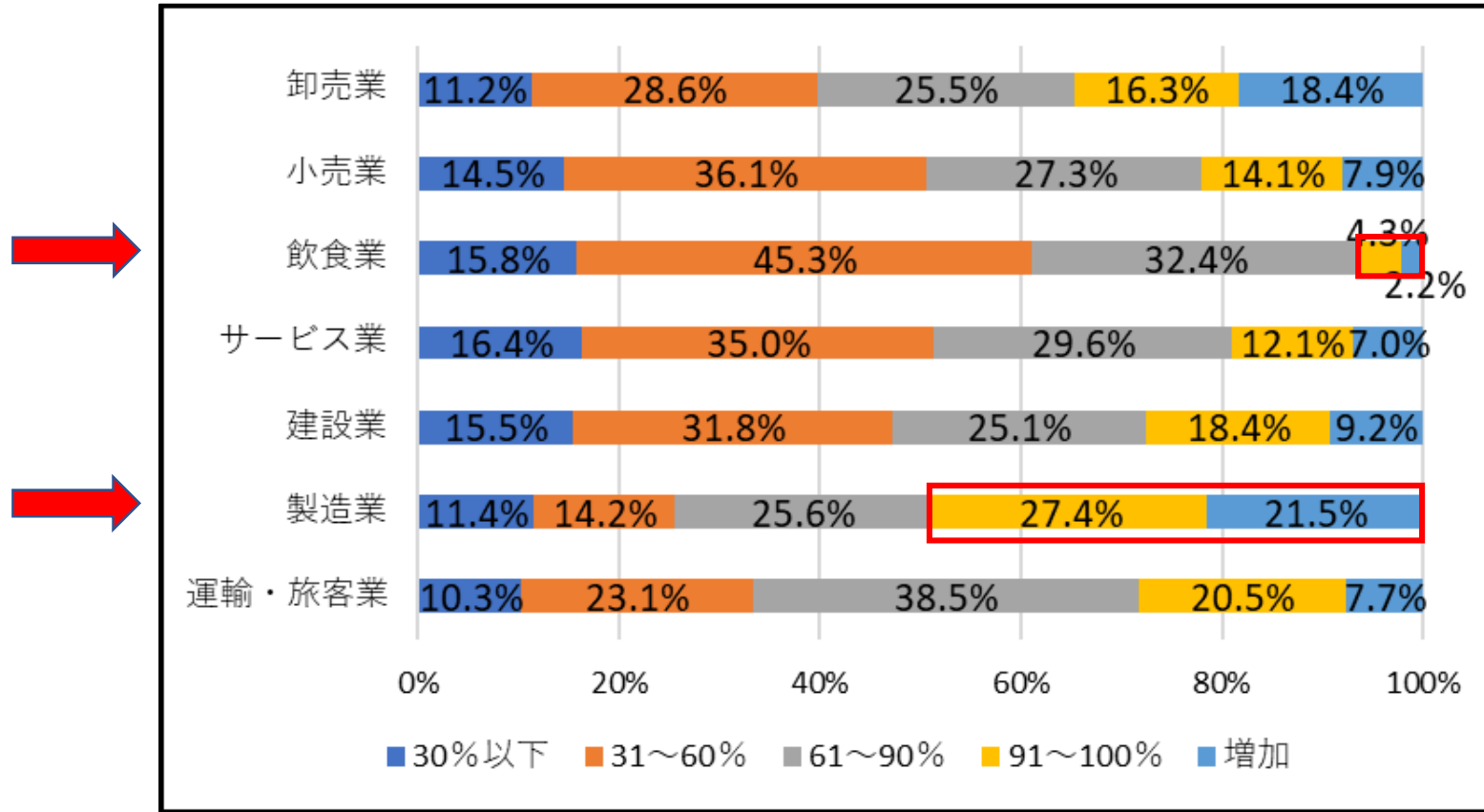


# 「新型コロナ」「原油高」「サプライチェーン停滞」の影響に関するアンケート調査結果

(一社) 岡山県商工会議所連合会

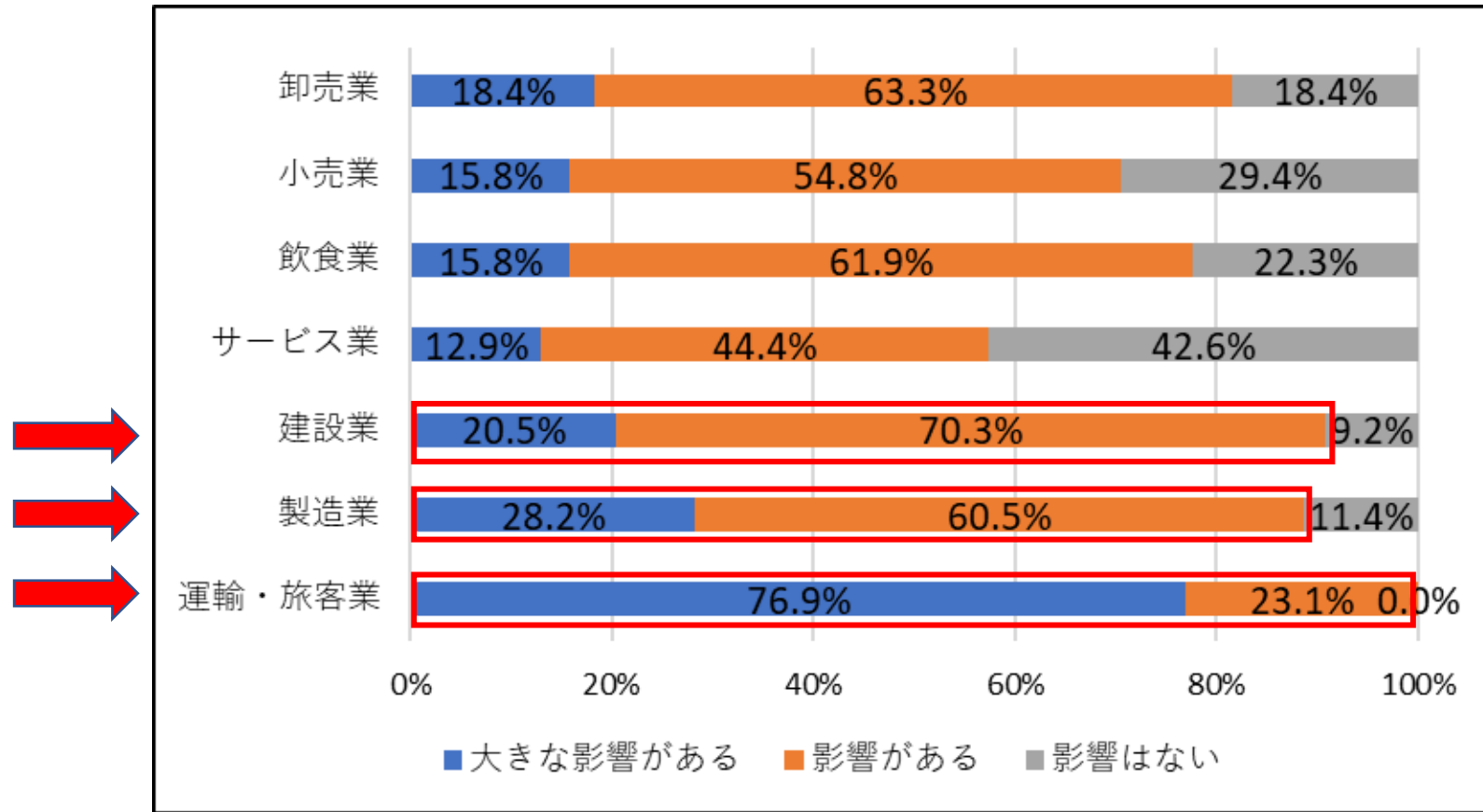
- 目的 新型コロナウイルス感染が落ち着くなか、県内中小企業の「コロナ前と比較した売上の回復状況」や「原油高・サプライチェーン停滞の影響」について調査する。
- 時期 令和3年12月8日～17日
- 方法 インターネット並びにFAX
- 対象 岡山県内商工会議所管内事業所から無作為抽出（回答数：1518社）

■ 問1 令和3年11月～12月(現在)の売上は、コロナ前の令和元年11月～12月の売上と比較して何%程度になっていますか。 P1



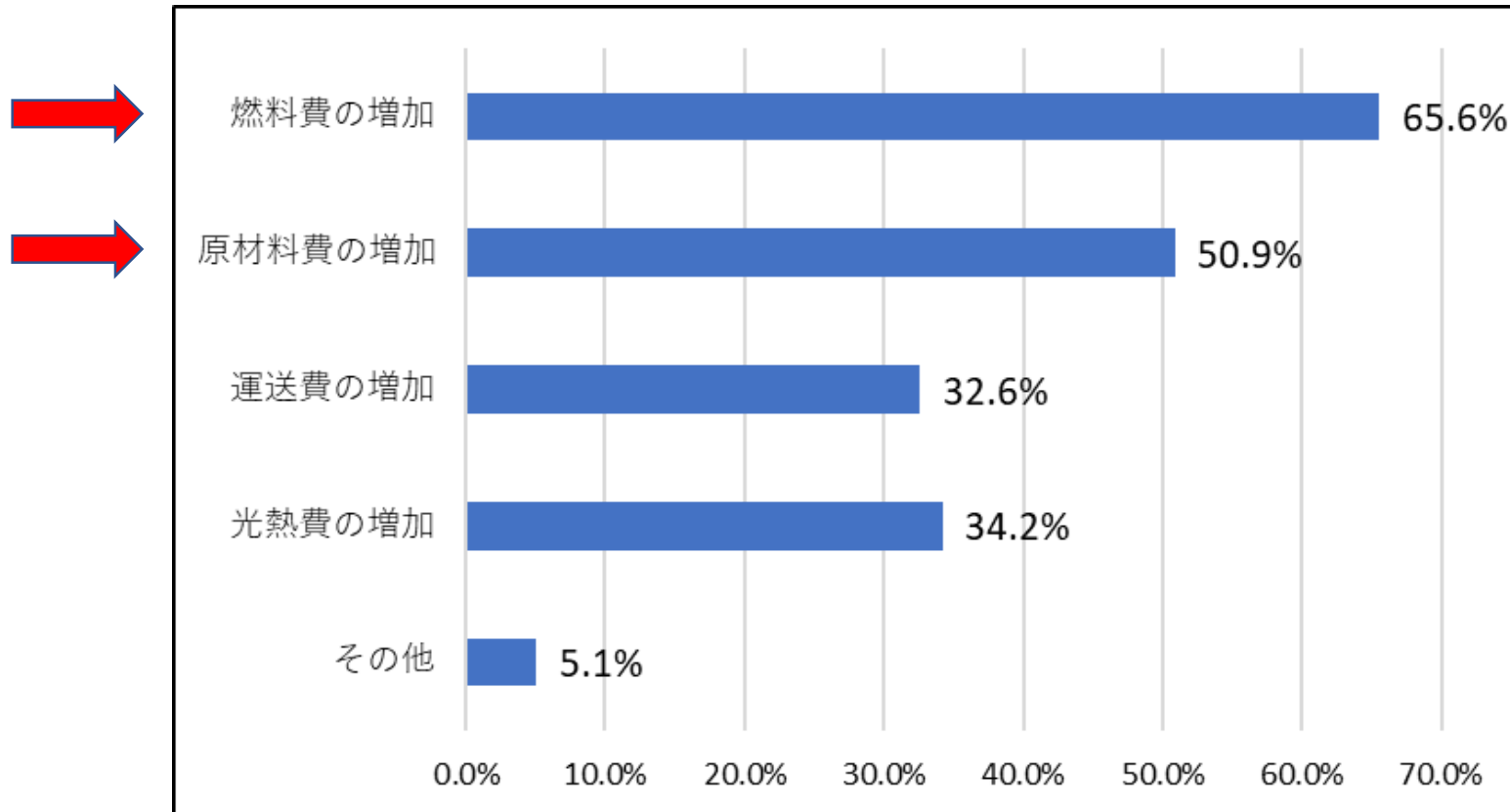
■ コロナ前と比較して最も回復の割合が高いのは製造業でコロナ前の「91～100%」とコロナ前より「増加」を加えるとほぼ半数となる。一方、最も回復割合が低いのは飲食業でコロナ前の「91～100%」とコロナ前より「増加」を加えた割合は、わずか6.5%にとどまっている。

■ 問2 原油価格高騰の影響について、該当する項目を1つ選択してください。



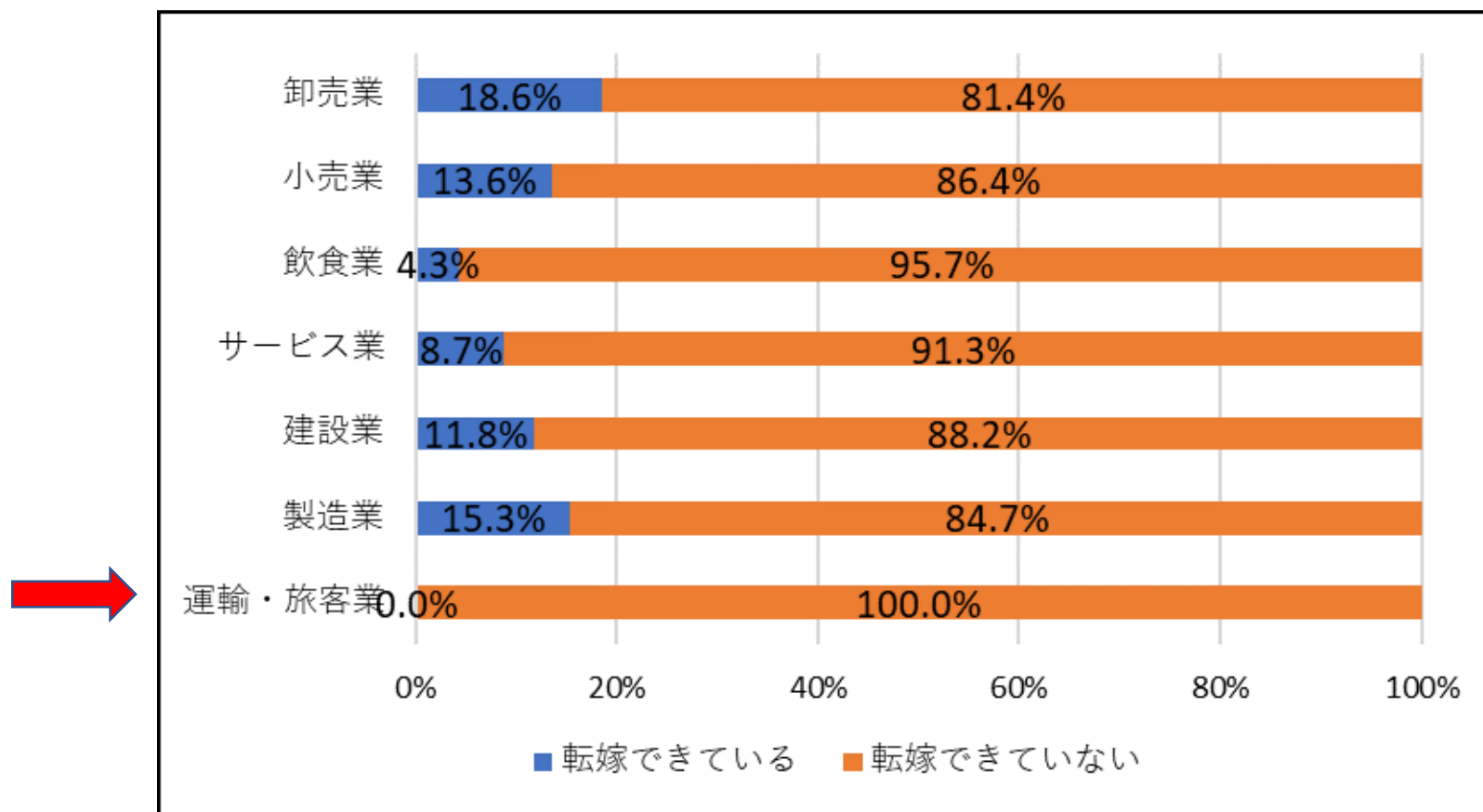
- 原油価格高騰の影響が最も大きかったのは運輸・旅客業で「大きな影響がある」「影響がある」を合わせると100%となり、製造業、建設業においても約9割に上る結果となった。

- 問3 (問2で「影響がある」と回答した方) は、該当する項目を選択してください。(複数選択可)



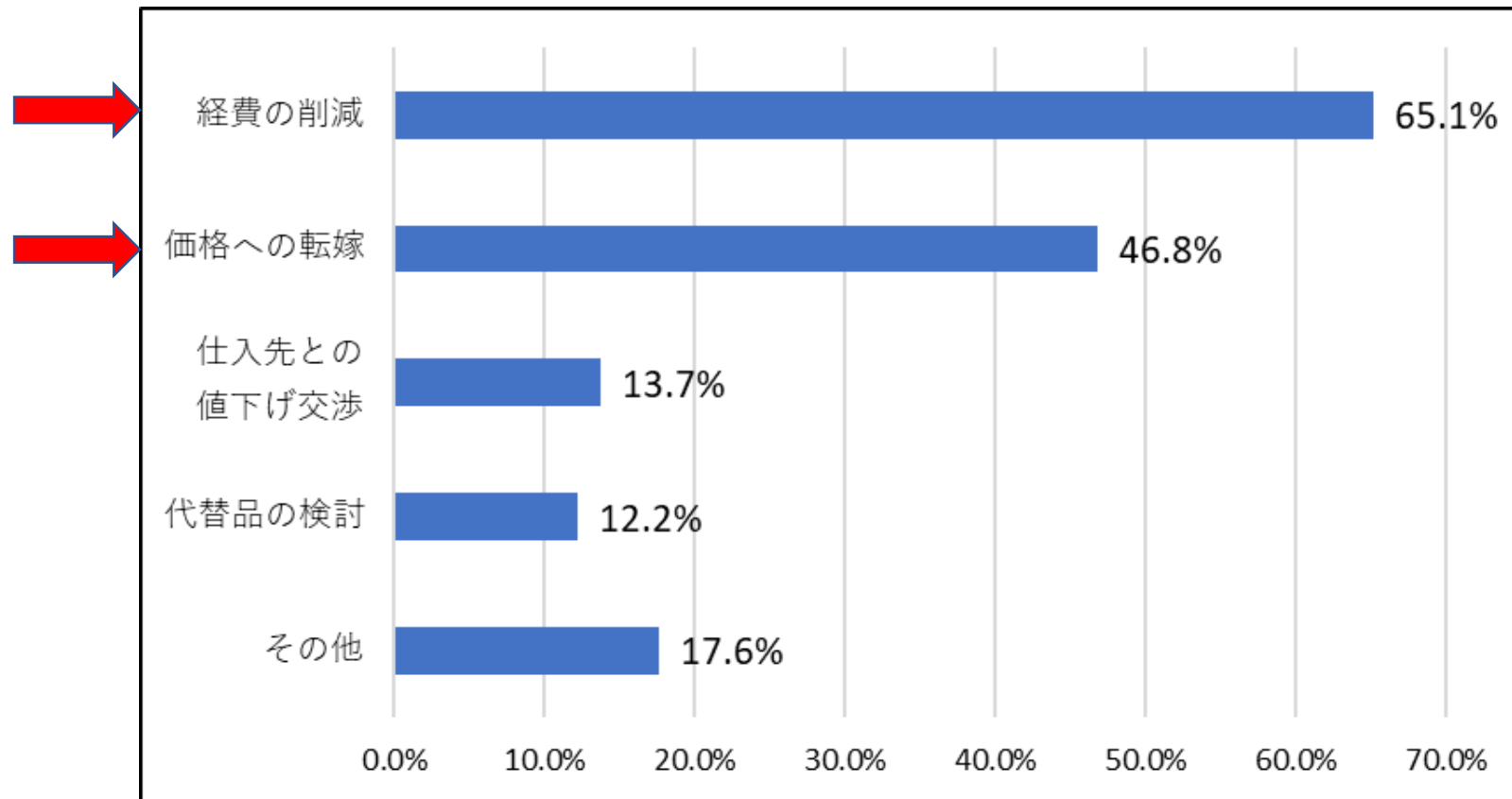
- 原油価格高騰による影響の内容としては「燃料費の増加」が最も多く、次いで「原材料費の増加」が続く結果となった。

## ■ 問4 原油価格高騰を販売価格に転嫁できていますか。



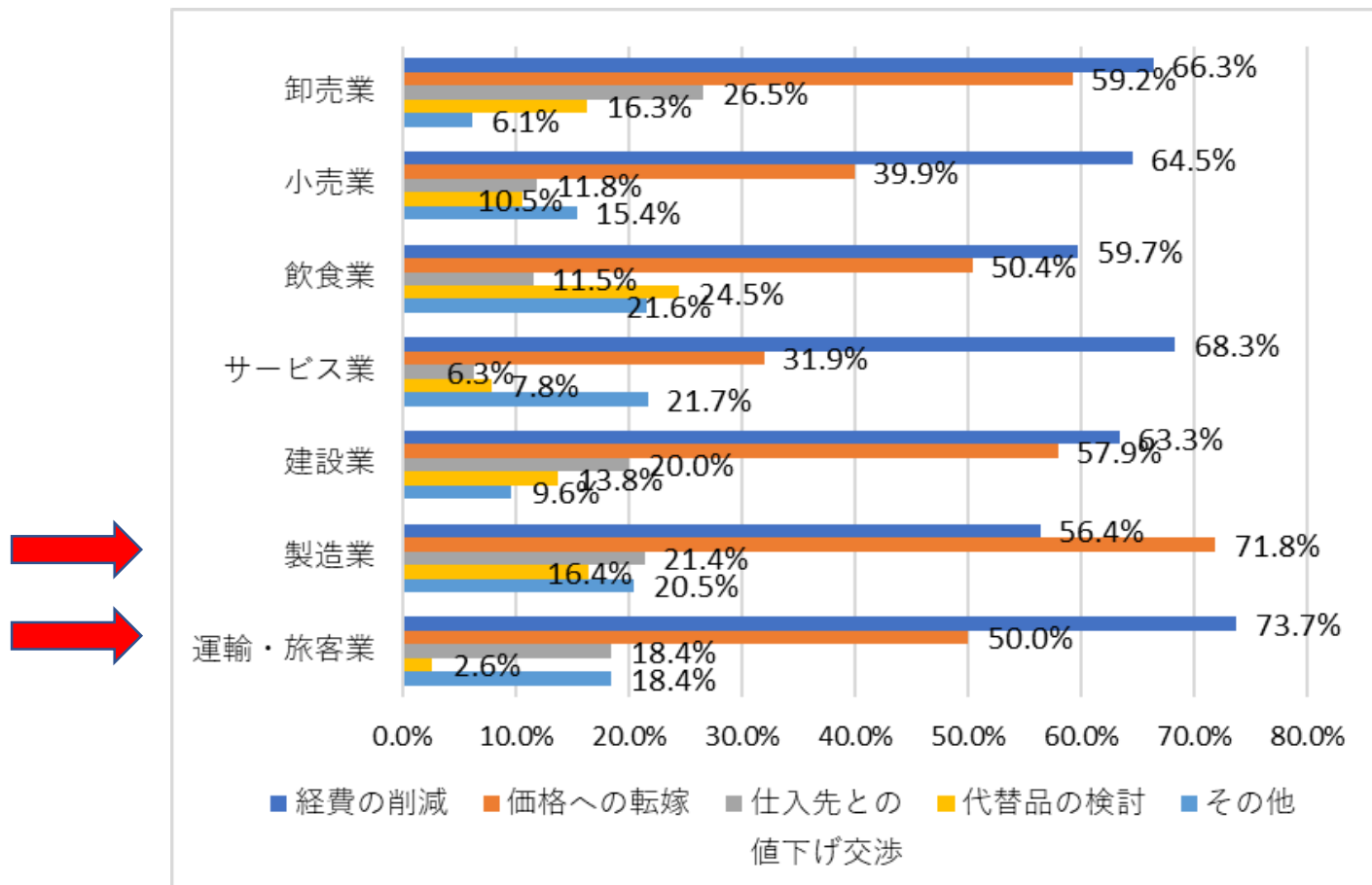
■ 運輸・旅客業においては、すべての事業所が原油価格高騰を販売価格に「転嫁できていない」と回答し、他の業種においても「転嫁できていない」と回答した事業所が8割超を占めた。

- 問5 今後も原油価格高騰が続いた場合、どのような対応をお考えですか。  
(複数選択可)



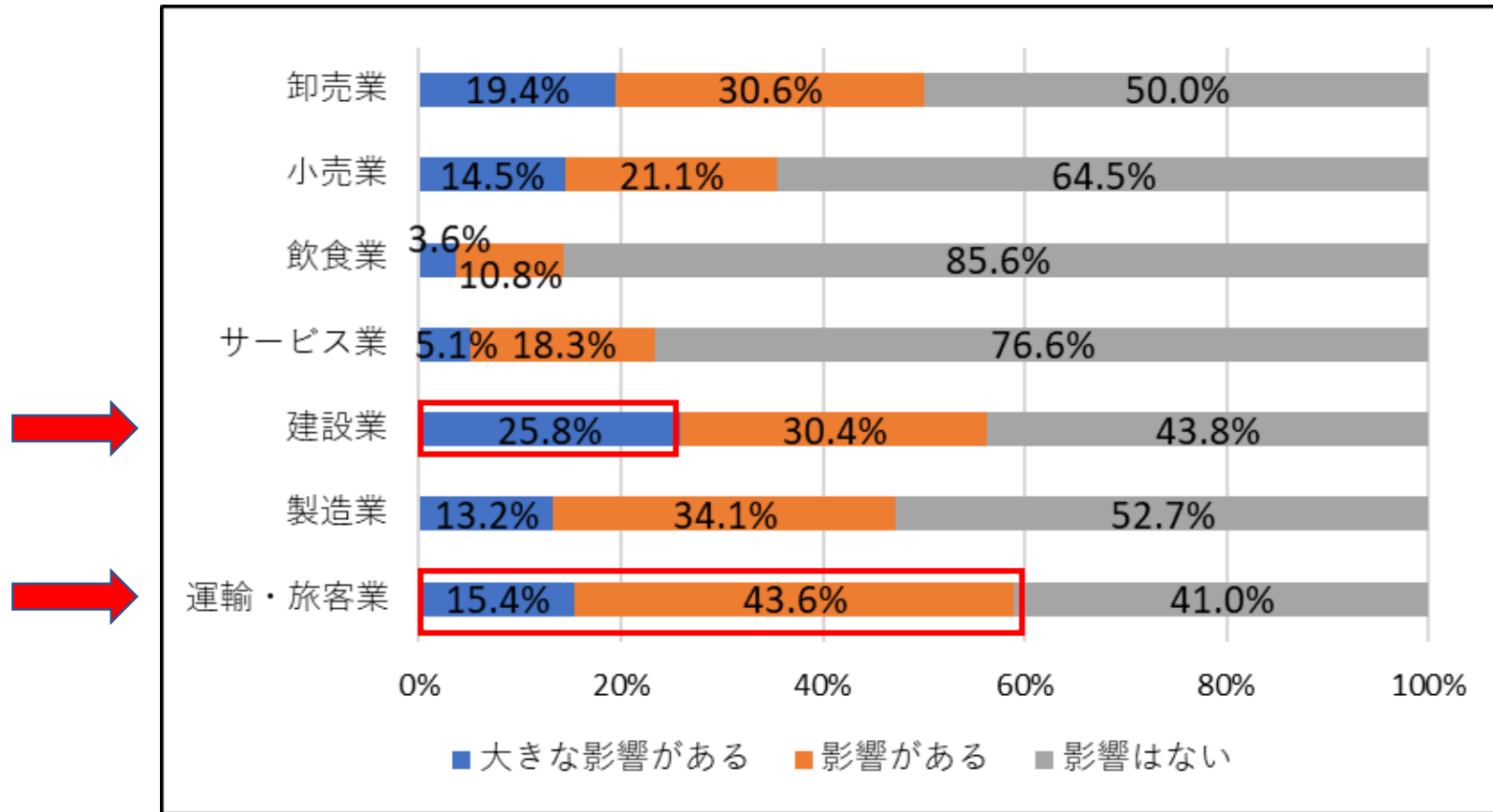
- 原油価格高騰が長期化した場合の対応においては「経費の削減」を回答した事業所が最も多く、次に「価格への転嫁」と回答した事業所が続く。その他回答としては「影響なし」「対応しようがない」などの意見が多くみられた。

■ 問5 今後も原油価格高騰が続いた場合、どのような対応をお考えですか。  
(複数選択可)



- 原油価格高騰が長期化した場合の対応として「価格への転嫁」と回答した割合が最も高いのは製造業であり、「経費の削減」と回答した割合が最も高いのは運輸・旅客業であった。

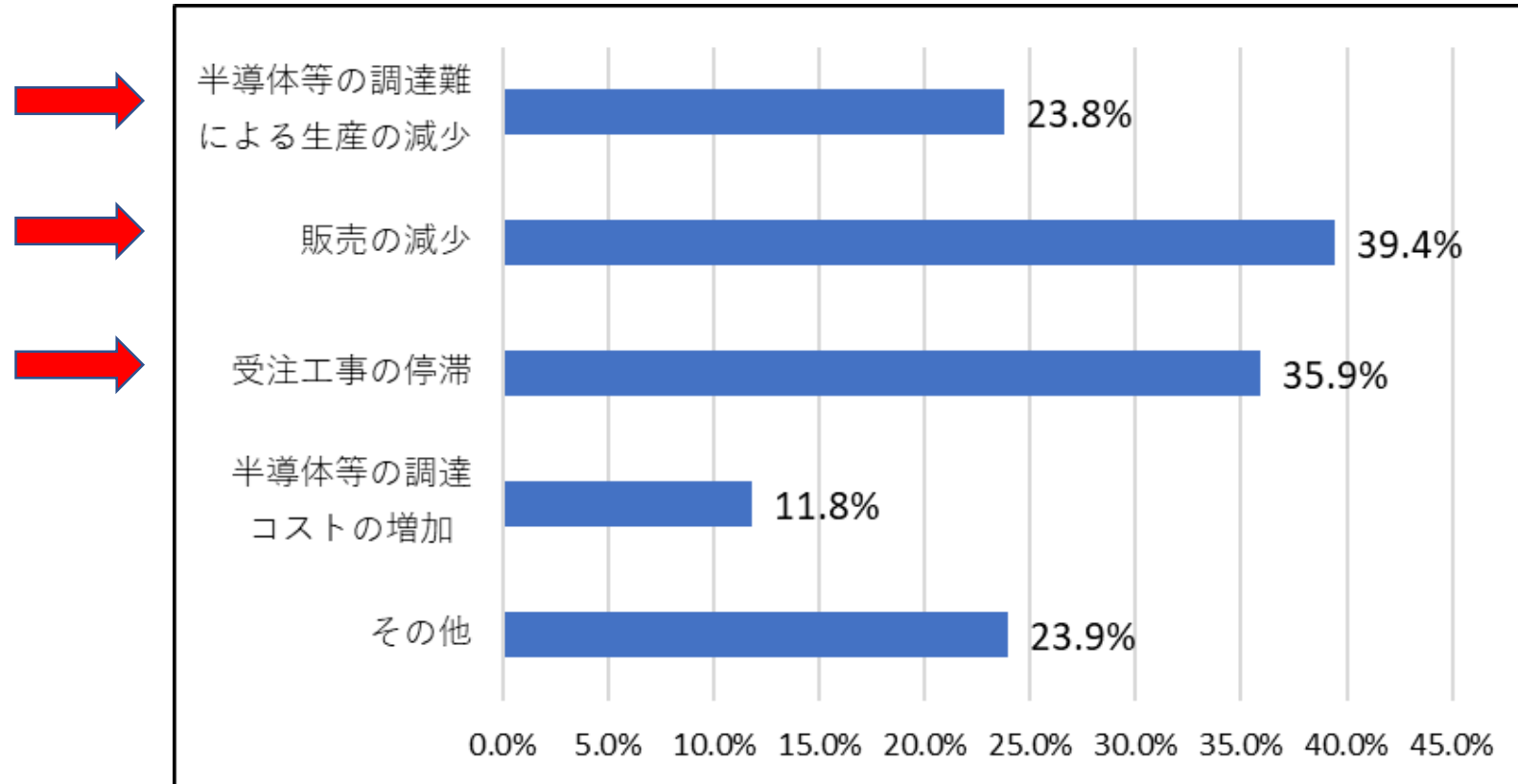
■ 問6 半導体等のサプライチェーンの停滞が続いていますが、影響はありますか P7  
か。



■ 半導体や、部品などサプライチェーン停滞の影響については、「大きな影響がある」と回答した事業所が25.8%と全業種の中で最も多かったのが建設業であり「大きな影響がある（15.4%）」と「影響がある（43.6%）」を合わせた割合が60%と全業種中最も高かったのは運輸・旅客業となった。

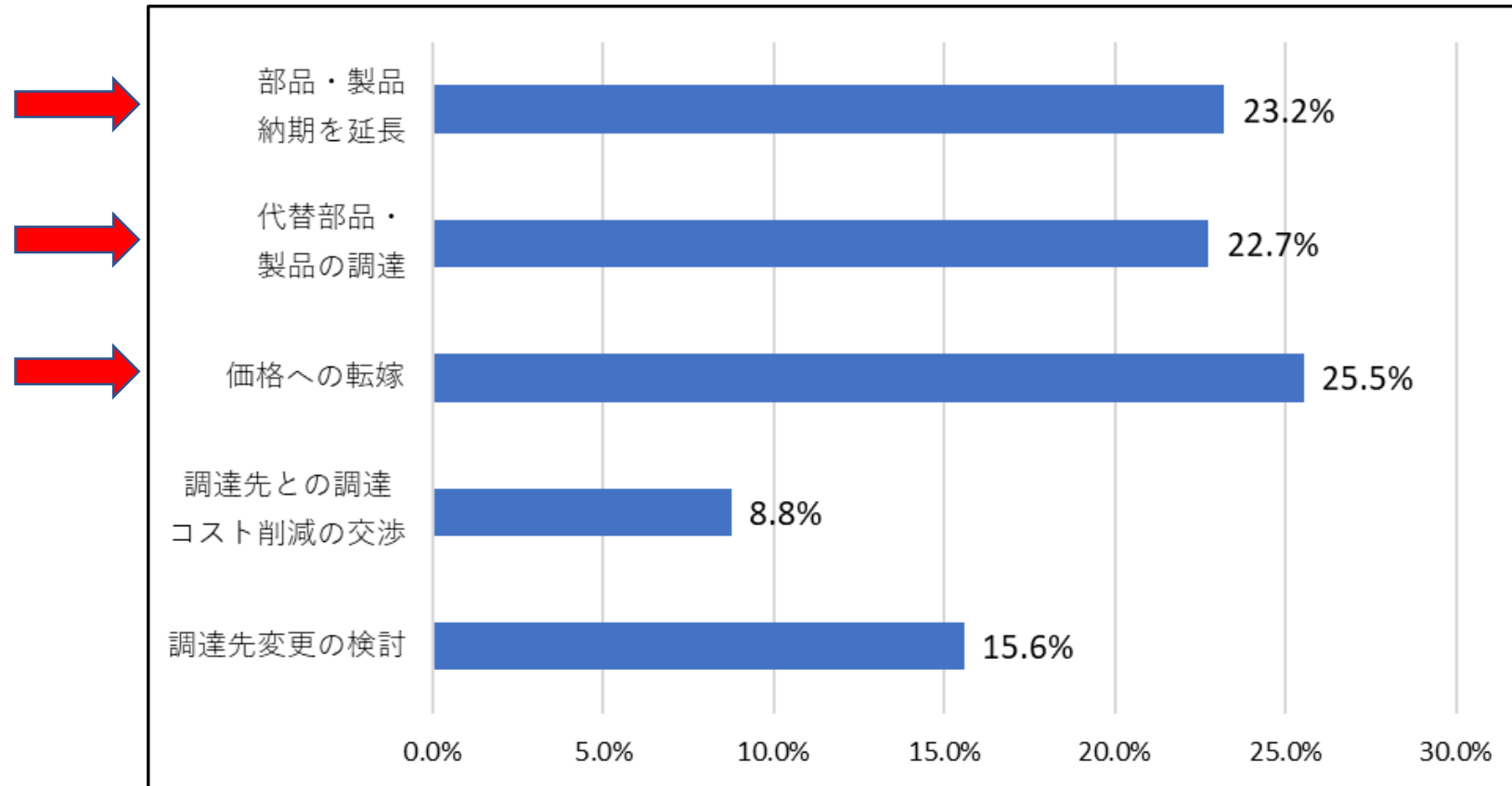


- 問7 (問6で「影響がある」と回答した方)は、該当する項目を選択してください。(複数選択可)



- 半導体等のサプライチェーン停滞の影響は「販売の減少」が最も多く、続いて「受注工事の停滞」「半導体等の調達難による生産の減少」の順になっている。  
「その他」としては、車両・住宅設備・PCや機器などの納品遅れの回答が目立った。

■ 問8 今後もサプライチェーンの停滞が続いた場合、どのような対応をお考えですか。（複数選択可）



- 今後、サプライチェーン停滞が長期化した場合の対応としては「価格への転嫁」が最も多く、次いで「部品・製品納期を延長」「代替部品・製品の調達」の順となっている。